

平成19年度第1回
宮崎県放課後子どもプラン推進委員会議事録要旨

- 1 開催日時 : 平成19年6月5日(火) 10時から12時まで
- 2 会場 : 県庁会議室
- 3 出席者 : 委員11名(2名欠席)
- 4 概要

(1) 会長・副会長の選出

会長 香川 征治 氏、副会長 高橋 利行 氏 にお願ひする。

(2) 説明(事務局から)

- 放課後子どもプラン及び本県の放課後対策について
- 放課後子ども教室推進事業について
- 放課後児童健全育成事業について

(3) 今後の放課後対策の進め方及び事業関係者の研修の方策についての協議

注) 以下、○は委員の発言

- 教室(クラブ)の内容として、趣味、スポーツ、絵を描かせる、読書をさせるなどが考えられるが、それには指導者が必要となる。
- ボランティアの方々が本事業のねらいや進め方を理解する研修の場が必要である。
- 住民への広報が十分でない市町村も見られる。まずは人材、予算の確保が必要な事業である。
- 情報をできる限り早く市町村に届けることが大切である。
- この事業を前向きに受け止めて推進していきたい。
- 夕方遅い時間までの対応をしているのは保育所が一番多い。居場所づくりについての保護者や保育園のニーズはどれくらいかアンケートを取ってはどうか。
- 異年齢交流を通して遊びに意味付けをすることが大切である。子どもたちがどんな遊びをしているか実態調査をするとういのではないか。
- 民間は今は、情報が国からしか得られていない。県や市町村は、本事業についての情報をもっと開示してほしい。情報があると計画も立てやすい。
- 子ども教室と児童クラブの連携を考える場合、あれもこれもでなくあれかこれかで考えたい。
- 教育の目的意識をもってやるプロジェクトにするべきである。
- 大人の発想で作ったものはどうなのか。居場所を見つけられる子どもづくり、子どものニーズを実現し、サポートできる居場所づくりが宮崎ならではのプランとなるのではないか。
- 子どもの自主性、自発性、創造性を地域が支援する、そういう場所を提供する。子どものニーズをサポートし、子どもたちが進んでやる。大人の主観が入ると長続きしない。地域の人に関わっていただくことが大切である。
- 共生社会の中で身に付ける学びの場である。特別支援学校は居住地にない場合が多い。居住地で一緒に学べるような特色があるとういのではないか。
- 子どもたちが飛びつきそうな魅力ある仕掛けが必要である。
- 常時相談できる窓口や掲示板が必要。悩みを解決できるような研修をしてほしい。